

KEY AS LOCKING-UNLOCKING AND START-STOP DEVICE BY HAND-WRITING INPUT

Publication number: JP11229688

Publication date: 1999-08-24

Inventor: KA SHIYUNKOU

Applicant: KA SHIYUNKOU

Classification:


- international: **G07C9/00; G07C9/00**; (IPC1-7): G06F1/00; E05B49/00

- european: G07C9/00E6

Application number: JP19980069195 19980213

Priority number(s): JP19980069195 19980213

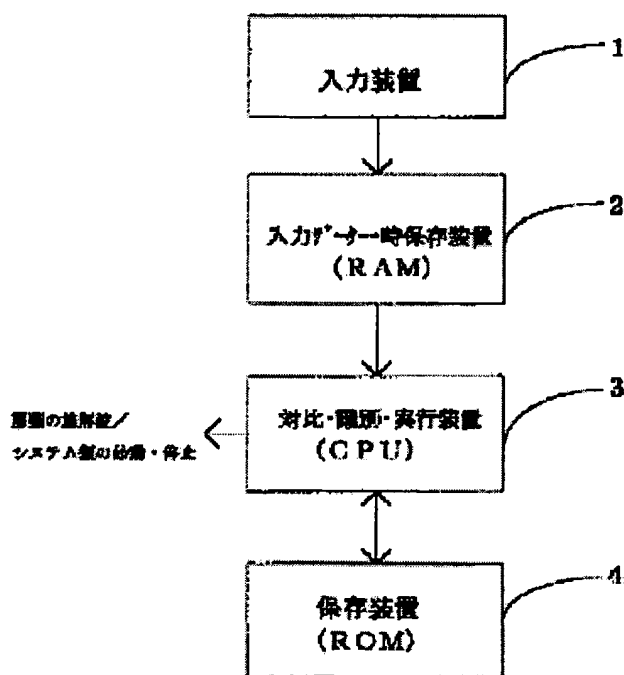
Also published as:

 WO9941477 (A1)

Report a data error here

Abstract of JP11229688

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a device capable of solving all of inconvenience in carrying, low safety, the trouble of abrasion after a fixed period passes, damage by the quality of a material and a storage space or low security in conventional keys. **SOLUTION:** When a specific character, sign or graphic is set beforehand in devices 2, 4 and a cipher is input by the finger of a hand by an input device 1, the cipher is digitized in the device 1, and compared with beforehand set data and discriminated, the locking and release of doors and the start and stop, etc., of systems are executed and a function as the key is fulfilled. Accordingly, since the cipher is input directly by the hand, inconvenience on the carrying side as seen in conventional devices is removed, copying is not also conducted and there is no possibility of damage and abrasion. Since the device is controlled extremely strictly, no cipher is leaked, and safety and privacy can be ensured.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I	
E 0 5 B 49/00		E 0 5 B 49/00	Z
// G 0 6 F 1/00	3 7 0	G 0 6 F 1/00	3 7 0 E

審査請求 有 請求項の数 4 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平10-69195

(22) 出願日 平成10年(1998) 2月13日

(71) 出願人 598025108

何 舜耕

東京都大田区大森北 3 丁目 29 番 17 号 メゾ
ンフランセ 202

(72) 発明者 何 舜耕

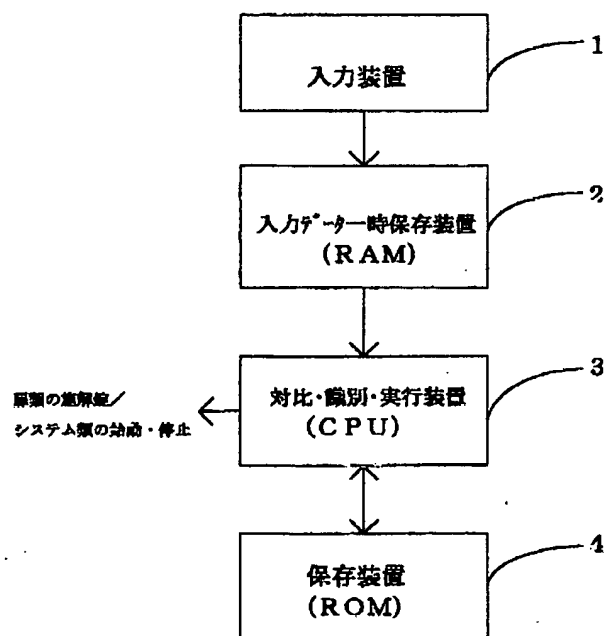
東京都大田区大森北 3 丁目 29 番 17 号 メゾ
ンフランセ 202

(54) 【発明の名称】 手書き入力による施解錠及び始動・停止装置としての鍵

(57) 【要約】

【課題】従来、通常に使用されている金属製の鍵は、常時、携帯する必要や遺失の恐れがあり不便である。又、複製も容易で安全性に欠ける。更に、一定期間、使用すると摩耗してしまい、本来の機能が低下する。又、ICカードも前記同様、携帯面で不便であるし、材質や置き場所による破損も発生する。あるいは、暗証番号入力方式の鍵も機密性に欠ける為、大変、不便である。

【解決手段】本発明は、特定の文字か符号か図形を暗号として予め該装置内に設定しておき、その暗号を入力装置により手の指で入力すると、該装置内で数値化し、既に設定済みのデータと対比及び識別して、扉類の施解錠やシステム類の始動・停止等を実行し、鍵としての機能を果たすというもので、手で直接、暗号を入力する為、従来のような携帯面での不便さがなくなり、複製もされず、破損や摩耗の心配もない。更に、該装置は非常に厳密に制御する為、暗号の漏洩もなく、安全性やプライバシー性を確保できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 予め設定してある特定の文字か符号あるいは図形等の座標入力情報を手の指により入力装置を通して入力すると、それを数値化し、不要部を削除し、更に直線・曲線化し、既に設定・保存済みのデータと対比及び識別し、扉類の施解錠やシステム類の始動・停止を実行するという、鍵の役割を果たす装置である。

【請求項2】 請求項1で述べた装置において、入力手段は手の指以外に電子ペン、マウス、トラックボール等、全てのポインティングデバイスでも対応可能である。又、入力装置とは、ディジタイザやタブレット、タッチパネル等、パッド面を有する全ての電子機器が対象である。

【請求項3】 請求項1で述べた装置において、暗号認識は、入力された暗号とデータ内の暗号がどの程度近いのか、という比率でなされ、より比率が大きい方が自動的に選択されるという機能、或いは、書き順によって暗号を判断し、特定できるという機能も有する。又、暗号入力後、その番号を確定する為のスイッチ類を付することも可能である。

【請求項4】 図1における保存装置4であるROM（読み出し専用記憶装置）には、PROM（書き込み可能読み出し専用記憶装置）、EPROM（消去再書き込み可能読み出し専用記憶装置）、マスクROM（再書き込み不可の読み出し専用記憶装置）も含むものとする。又、該ROMは、フロッピーディスクやハードディスク等の記憶機能を備えた全ての装置で代用可能である。更に、図1における入力データ一時保存装置2であるRAM（等速呼び出し記憶体）には、ダイナミックRAM（DRAM）、スタティックRAM（SRAM）も含むものとする。又、該RAMは、フロッピーディスクやハードディスク等の記憶機能を備えた全ての装置で代用可能である。更に、図1における対比・識別・実行装置3であるCPU（中央演算処理装置）は、機能的にRAM及びROMを兼有したもので代用可能である。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 本発明は、日常生活において、公私にわたり頻繁に接触する施解錠及び始動・停止行為の為の「鍵」という技術分野に属するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、通常で使用されている鍵は、常に携帯している必要があり、又、遺失する恐れもある。加えて、複製が大変、容易である為、安全性は極めて低い。更に、大抵の鍵は金属性の為、一定期間使用すると鍵部と錠部の双方が摩耗してしまい、本来の機能が低下してしまうという欠点がある。又、ICカードを鍵として使用する場合でも、前記の携帯における不便さや遺失の問題は同様であるし、カード自体の硬度が不十分の為、破損の恐れもある。或いは、前記ICカードは、磁

気性がある物の側や高温の場所に置いたりすると、内部機能が破損する可能性もある。又、暗証番号や電子暗号等を入力して利用する方式の鍵は、確かに携帯の不便さや遺失の恐れは発生しないが、その暗証番号や電子暗号が何かの形で漏洩する可能性もあり、機密性の面で問題がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、上述したような従来の鍵の、携帯における不便さ、安全性の低さ、一定期間経過後の摩耗の問題、材質や置き場所による破損、或いは機密性の低さをすべて解決できる装置を得るというものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、特定の文字か符号か図形を暗号として、予め該装置内に設定しておき、その暗号を入力装置により手の指で入力すると、該装置内で数値化し、既に設定・保存済みのデータと対比及び識別して、扉類の施解錠やシステム類の始動・停止等を実行し、鍵としての機能を果たすというもので、手により直接、暗号を入力する為、従来のように常時「物」としての「鍵」を携帯する必要がなくなり、又、遺失する心配もない。又、「物」としての「鍵」ではないので、他人に複製される恐れもなく安全性が高いし、破損する事もなく、且つ、一定期間使用しても摩耗する事もない。更に、該装置は、精密に暗号を認識し厳密に制御する為、他人が暗号を模倣したり検索したりする事が不可能なので、安全性やプライバシー性を確保するという面でも大変、有効である。

【0005】

【発明の実施の形態】 特定の文字か符号か図形を暗号として、予め該装置内のRAM（等速呼び出し記憶体）に設定・保存しておく。使用者が、既に設定・保存してある暗号を自分の指により入力すると、その暗号が数値化され、不要部が削除され、座標上にて直線化や曲線化が行われ、既に設定してある暗号と対比・識別され、一致すれば実行プログラムが作動し、所望の結果、即ち扉類の施解錠やシステム類の始動・停止が得られる。

【0006】

【実施例】 まず、特定の文字（例：あ）か符号（例：*）か図形（例：◎）を決め、該装置のRAM（等速呼び出し記憶体）に暗号として設定・保存しておく。設定・保存した暗号を入力装置1を用いて手の指で入力する。入力された暗号は、一時的に該装置内の入力データ一時保存装置2（RAM）に保存される。その後、入力された暗号が数値化され、不要と判断された部分が削除され、座標上にて直線化あるいは曲線化される。更に、実行装置3であるCPU（中央演算処理装置）により、既に設定してあるRAM内のデータと対比及び識別され、結果が一致すれば、所望の動作（扉類の施解錠やシステム等の始動・停止）が実行される。実行されたプロ

グラムは再び、保存装置4内に保存される。

【0007】

【発明の効果】上述のように、本発明の手書き入力による開閉及び始動・停止装置としての鍵は、入力装置により手の指で特定の暗号を入力するという行為のみで、従来の鍵と同等の機能を果たす事が可能であるし、なおかつ、従来の鍵の持つ、携帯の不便さ、安全性の低さ、一定期間経過後の摩耗の問題、材質や置き場所による破損、或いは機密性の低さ等の問題を解決するのに大変、有効である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の構成例を示したブロック図である。

【図2】該装置の動作フローを表したフローチャートで

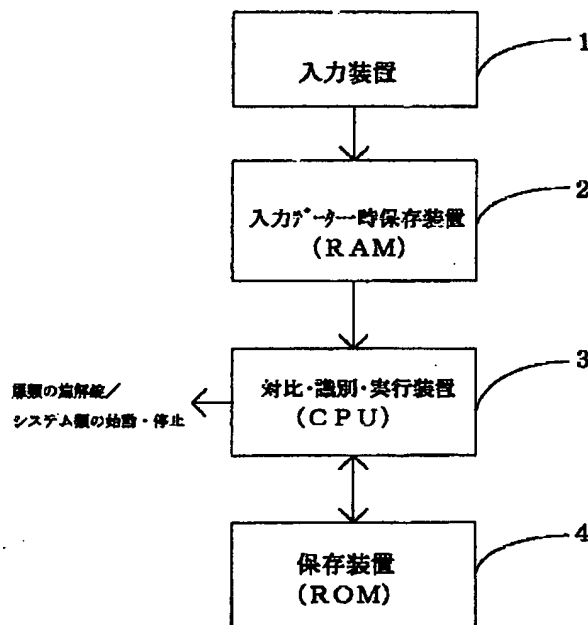
ある。

【図3】本発明の機能の手順を表したブロック図である。

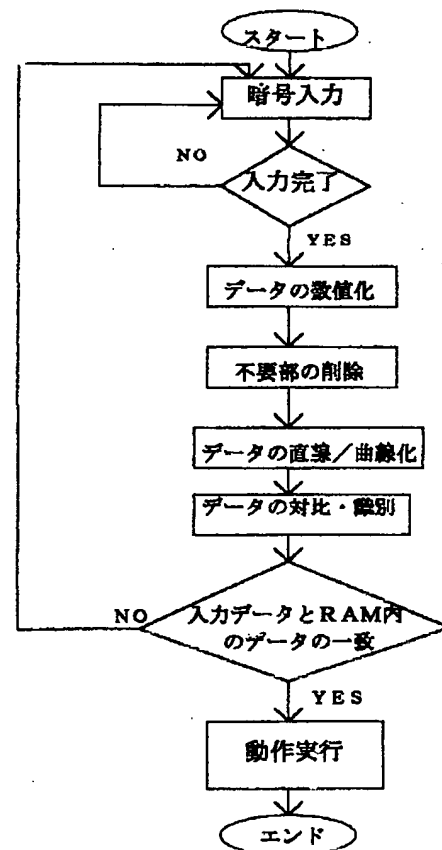
【符号の説明】

- 1 入力装置
- 2 入力データ一時保存装置 (RAM)
- 3 対比・識別・実行装置 (CPU)
- 4 保存装置 (ROM)
- 5 座標入力装置
- 6 データの数値化
- 7 筆跡特徴の抽出 (不要部の削除/直線・曲線化)
- 8 データの対比・識別
- 9 実行プログラムの保存

【図1】



【図2】



【図3】

